

## 令和5年度小中連携による学力向上推進地域指定事業実施計画（2年次）

### 1 研究テーマ

「主体的で対話的な学びの創造」

～算数科を中心とした読み解く力や書く力の向上を目指して～

### 2 研究テーマ設定の趣旨（背景、現状等）

令和4年度から小中連携に係る学力向上推進地域指定事業に取り組み、今年度が2年目となる。昨年度は、児童の実態として、進んで自分の考えを他者と対話し、考えを深める力や、何を問われているのかといった読み取る力（読解力）、自分の考えを書く力（表現力）に課題が見られた。そのため、主体的な学びを促す児童の「問い」を活かす授業づくりに取り組むことで、学びを児童が自分事として受け止め、主体的に学ぶ姿、学び続ける姿への変容や根拠に基づいて自分の考えを持つ力（書く力）、他者の考え方の違いを尊重する力、読み解く力の向上を目指し取り組んだ。その結果、児童自身に「問い」という課題意識をもたせる授業づくりが浸透しつつあり、自分事として授業に取り組むことができる意欲的な児童が見られるようになってきた。また、「問い」の言葉をつぶやく姿や、教師の問いに対して即座に反応する様子も増えてきている。特に、ワークシートやノートに書く活動を多く取り入れたことにより、根拠を明確にして自分の考えを表現することができる児童が育ってきている。さらに、タブレット端末を活用して自分の考えを深め、表現する児童も増え、県学習状況調査の結果にも「思考・判断・表現」の観点が増え、成果として表れている。

その一方、新たな課題として2点が出てきている。1点目は、「知識・技能」の観点において県学習状況調査の結果から県平均の正答率を下回っていたこと、2点目として、他者との対話が自分の考えを深化させたと感じている児童の割合が低いことである。

そこで、今年度も「問い」を中心にした授業づくり、単元を意識した授業づくりを継続しつつ、質の高い対話がなされ、児童の学びを引き出す、より洗練した言葉かけができるよう教師側の指導を工夫・改善していきたい。対話の質が高まれば、当然自分の考えの質が高まり、他者との対話が自分の考えを深化させたと感じる児童を増やすことができる。そうすることで、児童が自分に自信をもつことのできる、自己肯定感に満ちた児童になるよう育成を図っていきたい。さらに、小中の共通の取組として、協働的に問題解決を図ることができる授業づくり、教職員の相互参観・研究協議を行い、授業力向上等を目指し、研究を推進していきたい。

### 3 取り組むテーマの成果指標及び目標

#### (1) 令和5年度

成 果 指 標	<p>①県調査の各教科平均正答率で、同一児童による学校正答率の対県比 ・小学校5年、6年 実施教科（2科目） （R4県調査【小4、小5時】とR4県調査（過去問）での比較）</p> <p>②「授業改善リーフレット（授業づくりのステップ1・2・3）をよく活用している」と考える教師の割合【中学校区共通】</p> <p>③「児童の『問い』を活かす授業を推進できた」と考える教師の割合</p> <p>④「自分の考えを持ち、その考えを友だちや先生と対話することで、深めることができる」と考える児童の割合</p>
---------	--

成果指標の目標	① ●5年生 (現状) ⇒ 【目標】 ⇒ (結果) R4県調査(12月) R4県調査(過去問) R4県調査(過去問) 国語 1.01 ⇒ 1.05 ⇒ 算数 1.02 ⇒ 1.05 ⇒
	●6年生 (現状) ⇒ 【目標】 ⇒ (結果) R4県調査(12月) R4県調査(過去問) R4県調査(過去問) 国語 1.18 ⇒ 1.20 ⇒ 算数 1.20 ⇒ 1.22 ⇒
	② 「肯定的」回答の割合 (現状) ⇒ 【目標】 ⇒ (結果) 75.0% 80.0%
	③ 「肯定的」回答の割合 (現状) ⇒ 【目標】 ⇒ (結果) 67.0% 80.0%
④ 「肯定的」回答の割合 (現状) ⇒ 【目標】 ⇒ (結果) 88.0% 90.0%	
目標達成のための取組	①児童の「問い」(課題)を活かす探求型の授業づくり(基礎的・基本的な知識・技能を活用し、対話を促す授業) ②各授業において、「めあて」「まとめ」「振り返り」を指導過程に確実に位置づける(「授業づくりのステップ1・2・3」の活用)。 ③教職員が校種の壁を乗り越え、9年間の学びについて考えるよう、研究授業日以外に、指定校相互の授業参観を設定する。

#### 4 事業期間

令和5年4月 ～ 令和6年3月

#### 5 実施・研究内容

##### (1) 協議・検討のための会議等の設置

主な構成等	開催予定回数
○学力向上に係る小中合同推進委員会	5回
管理職、教務主任、研修主任、学力向上対策コーディネーター	
○小中合同研修会	3回
○小中合同三部会	
①授業づくり部会【授業研究会を含む】	4回
②学習土台づくり部会	3回
③調査・データ分析部会	3回

(2) 予定している主な調査・研究活動

- ・ 研究授業（各学校で授業公開・相互参観を実施）
- ・ 諸調査について、校種や教科の枠を超えての分析
- ・ 児童の実態調査
- ・ 先進校視察及びその研修会

(3) その他、当事業において実施する事項

- ・ 学力向上に関する取組のHPでの公開
- ・ 授業における外部リソースの活用
- ・ 教師対象の学力向上についての小中合同講演会の実施

6 期待される効果

<児童の姿>

- ・ 目的を考え、質の高い「問い」をもつ児童
- ・ 対話をするためのスキルをもつ児童
- ・ 自らの学びを推進していくことができる児童
- ・ 自分の考えに自信をもつことができる児童
- ・ 「知識・理解」の向上
- ・ 質の高い対話を通じた「知識」をもつ児童
- ・ 読み解く力の向上

<教職員の姿>

- ・ 算数科の全単元において「問い」を中心にした授業づくり、単元で授業づくりを行うことができる教職員
- ・ 児童の学びを引き出す、より洗練した言葉かけができる教職員
- ・ 配慮を要する児童への手立てをうつことができる教職員
- ・ 主体的に学ぶことができる教職員
- ・ 小中連携を意識して協働的な取組を推進できる教職員

<保護者の姿>

- ・ 小中学校の連携した取組を理解し、学力向上へ向けて協働することができる保護者